

日本聾話学校
聴覚障がい児のためのチャリティー映画会



がんと闘う8歳の少年が
かみさま宛に送った
やさしい願いとは？

かみさまへの

*Letters
to God*

てがみ



2013年

6月14日(金) 18:20開演(開場17:50)

(本校児童・生徒による歌・ハンドベル演奏に引き続き本編上映1時間50分)

日比谷公会堂

会員券:指定席2,000円/自由席1,600円

郵便振替およびお電話・ファックスにてお申し込みください。

TEL.042-735-2361 FAX.042-734-8292(日本聾話学校)

郵便振替 00130-7-52121

◎主催/日本聾話学校チャリティー映画会実行委員会

◎後援/朝日新聞厚生文化事業団 ◎協力/T&Kテレフィルム

© Copyright 2006 BRISTOL BAY PRODUCTIONS LLC. ALL RIGHTS RESERVED



補聴器装着聴覚障がい者の方々のために磁気ループ席を用意しております。



不治の病に侵された少年が、神様に手紙を書く——
全米が涙した、実話に基づいた感動の話題作！
病氣と闘いながらもポジティブな少年に、号泣必至！

パトリック・ドハティー氏の息子タイラーは、8歳の時に髄芽腫を患っていることが発覚。その2年後、2005年にタイラーは亡くなり、彼の治療のためにすべてを費やしたドハティー氏は、息子のことを本にしようと執筆を始め、それがきっかけとなり映画化が実現した。

STORY

8歳にしてがんに侵された少年タイラー。抗がん剤治療を終え、一時退院したものの、学校にも行けず、大好きなサッカーも出来ない。そんなタイラーが毎日欠かさずしていること——それは、神様へ手紙を書くこと。病気のこと、息子のために一生懸命な母親マディのこと、大親友サムのこと——感謝や不安、祈りの言葉を綴るタイラー。このタイラーの手紙を毎日受け取っているのが、郵便配達員のブレイディ。手紙を読んで心を打たれた彼は、自分に何か出来ないかと、タイラーを始めとする家族たちと交流を持つようになる。いつも前向きなタイラーに、逆に励まされる家族やブレイディ。しかし、病魔は容赦なくタイラーの体を蝕んでいく——果たしてタイラーの祈りは、神様に届くのか？



お問い合わせ

学校法人 **日本聾話学校**
URL <http://www.nrg.ac.jp/>

〒195-0063 東京都町田市野津田町並木1942
TEL.042-735-2361(代) FAX.042-734-8292

日本聾話学校は日本で唯一のキリスト教精神による私立聾学校です。子ども達はデジタル補聴器や人工内耳によって、残された聴力を最大限に活用し、心からの対話を重視した『聴覚主導の人間教育』を受けています。これにより子ども達はそれぞれ、明るく・やさしく・たくましく・そして本当に賢くしっかりした人間に育っています。ぜひ一度、明るい笑顔あふれる、好奇心いっぱいの子供達に会いに野津田の丘にお出かけください。



日比谷公会堂へのアクセス方法
(都立日比谷公園内)

- 東京メトロ 丸の内線「霞ヶ関」出口B-1より 徒歩4分
- 東京メトロ 日比谷線・千代田線 「日比谷」出口A-14より 徒歩3分
- 都営地下鉄 三田線 「内幸町」出口A-7より 徒歩2分

